

# 全員協議会説明資料

## (令和8年3月12日)

(協議案件)

④ 環境保全林の活用と拠点施設の整備について

産業経済課林業・森林再生推進グループ

## 1 森林の概要

- (1) 名称：新町、豊沢、宇隆地区環境保全林（以下、「環境保全林」という。）
- (2) 所在：厚真町新町1番ほか
- (3) 面積：279.7ha
- (4) 特徴：

- ① 町の中心地に約280haの森林が一塊で存在する（図1）
- ② 地形は比較的平坦でササ類の丈も低い（場所によっては無い）ため歩きやすい
- ③ ササ類が少ない箇所にはランやヤマシャクヤク等の希少な植物が生育
- ④ コナラ、カエデ類、カンバ類を主体とする天然林が多く森林内が明るい
- ⑤ 林齢は40－60年生の森林が多く、成長量が旺盛
- ⑥ 都市計画法上第二種住居地域、第二種低層住居専用地域に指定されている（図2）

※第二種住居地域：主に住居の環境を保護する地域であるが、幅広い用途の建物が建てられる。例 店舗（10,000㎡以下）、宿泊施設、運動施設、医療・福祉施設、文教施設等

※第二種低層住居専用地域：良好な住環境を守るため厳しい規制がかかった地域



写真1 森林と林業専用道



写真2 散策路に配置された木橋

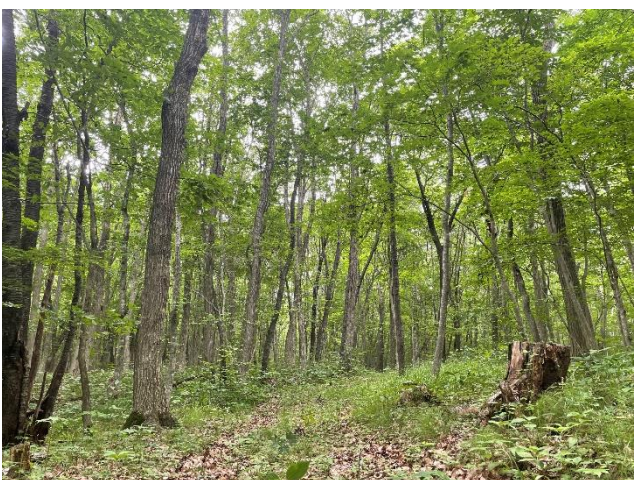


写真3 ササの無い天然林の林床と散策路



写真4 カラマツ人工林と散策路

## 2 森林活用を進める上での目標と、基本とする考え方

### (1) 目標

人と森林との豊かで柔軟で持続可能な共生関係の構築

### (2) 基本とする考え方

- ・ 森が持つ回復力の範囲内での活動を基本とする
- ・ 新技術や異分野の技術の活用を積極的に検討する
- ・ 伝統的な技術や産業を活用する
- ・ 自律した経済活動を創出する
- ・ 全てを使い切らず余白を残す

### (3) 基礎とする事業

- ・ 体験の創出
- ・ 森林の手入れ
- ・ 調査・研究

## 3 事業の内容

### (1) 環境教育・イベント・各種研修

- ・ 町内の保育園、環境教育団体、小中高生の授業での利用
- ・ 散策会（鳥や動植物観察会）や森を活用したイベントの開催  
➡ 森林を訪れる・活用する人を増やす

### (2) 森林の手入れ

- ・ 町民などを主体に多様な価値観と長期視点に基づいた整備を実施
- ・ 楽しみ、学びながら活動を進める
- ・ 必要に応じて研究者等の専門家を招き活動を進める  
➡ 居心地の良く愛着を持てる森林の創出

### (3) 調査・研究

- ・ 森林の状態・変化を把握
- ・ 森と人とが共存するために必要な研究フィールドとしての活用  
➡ 活動の影響評価。必要に応じた各種修正。多様な学びの機会の創出

## 4 活動内容

- (1) 散策者：15件 120人程度（把握できている限り）
- (2) イベント：11回（内1回はこれから） 170人程度
- (3) 小学校授業：2回（内1回は中止） 16人
- (4) 森の保育園：6回（内1回は中止） 130人
- (5) 陸上競技のトレーニング：1回 15人
- (6) オリエンテーリング大会及び準備等：9回（大会は1回） 270人（延べ人数）
- (7) ホーストレッキング等：4回 40人

合計761人（把握できている限り）

※その他、町内でのツアー等での利用実績も有り

## 5 拠点施設の設計の状況（設計中のため数字は変更する可能性あり）

- (1) 建設面積：125㎡（約38坪）
- (2) 構造：木造平屋建て（古民家の古材の利用を検討中）
- (3) 機能：事務室、休憩スペース、リビング、キッチン、トイレ（多機能トイレ）、授乳室、インターネット環境整備
- (4) インフラ：電気・水は現地調達を基本、ガスは運搬
- (5) 外構：700㎡程度（建物、身障者用駐車場2台分などを含む）、外にバイオマストイレを設置予定
- (6) 資料：平面図（図3）、施設の外観・内観のイメージ（写真5～8）

## 6 建設に係る事業費（案）

### (1) 施設概要

森林になるべく負荷をかけず、森と人との共存を考えるきっかけを創出することを目指し、施設のオフグリッド化を図る。その為、必要最低限の太陽光パネルや蓄電池の設置、電気需要が増加する際への備えとしてV2HのEVスタンドを配置し、EVも購入する。また、極力エネルギーを使わずに活動に適した室温を確保するため、高気密高断熱化を図ることとする。

### (2) 事業費及び財源案

国の交付金については地域未来交付金（旧新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金））の活用を想定。道補助金については、ゼロカーボン・モビリティ導入支援事業の活用を想定。

項目	事業費	(千円)				
		国交付金	道補助金	補助金	起債	一財
設計費	9,306	4,653			0	4,653
建築費等	107,052	53,526			53,526	0
工事監督費	5,566	2,783			2,783	0
電気設備費	14,872		7,436			7,436
EV購入費	3,283		1,355	573		1,355
合計	140,079	60,962	8,791	573	56,309	13,444

## 7 施設の管理主体の概要

### (1) 事業主体の形態

- ・長期的思考に沿った公益性の実現：200年を超える長期的な計画の実施が可能か
- ・社会情勢の変化からの独立性：社会情勢等からある程度独立し目的を達成できるか
- ・寄付やふるさと納税の受け入れやすさ：寄附等の受け入れに馴染む組織形態か
- ・設立に関する負担：設立に要する費用や労力

表1 それぞれの形態の特徴について

	株式会社	NPO 法人	一般社団法人	公益財団法人	会議体
長期的思考にそった公益の実現	○	◎	◎	◎	○
社会情勢の変化からの独立性	○	△	○	○	△
寄附やふるさと納税の受け入れ	△	○	○	○	△
設立に係る負担	△	△	△	×	◎

(2) 事業費の確保

企業研修受け入れ等の自主事業の実施、企業版ふるさと納税の活用、寄附、町からの事業の委託等を組み合わせ、出来る限り自律した運営を目指す。

## 8 今後の予定

(1) ガイドラインの設定

- ・施設利用+森林利用ガイドライン
- ・ゴミ管理+ヒグマ出没時等の利用ルール設定等

(2) 森林調査の実施・ゾーニングの検討

- ・森林への影響を把握するための調査項目設定と調査の実施  
森林+植生調査、鳥類調査、森林構造（林内温度含む？）調査  
水資源についての調査は要検討

(3) 森林活用の推進

- ・主に町民を対象とした各種イベントの開催  
（散策会、植物観察、バードウォッチング等）
- ・町民も参加した森林整備の実施、町外者向け研修の実施

(4) 拠点施設の建設及びアクセス道の拡幅

- ・今後、建設費の予算計上を予定
- ・R8年6月を目途に入札の実施、R9年3月の完成を予定
- ・新町側からのアクセス道を一部拡幅（車両のすれ違い場所の増加）

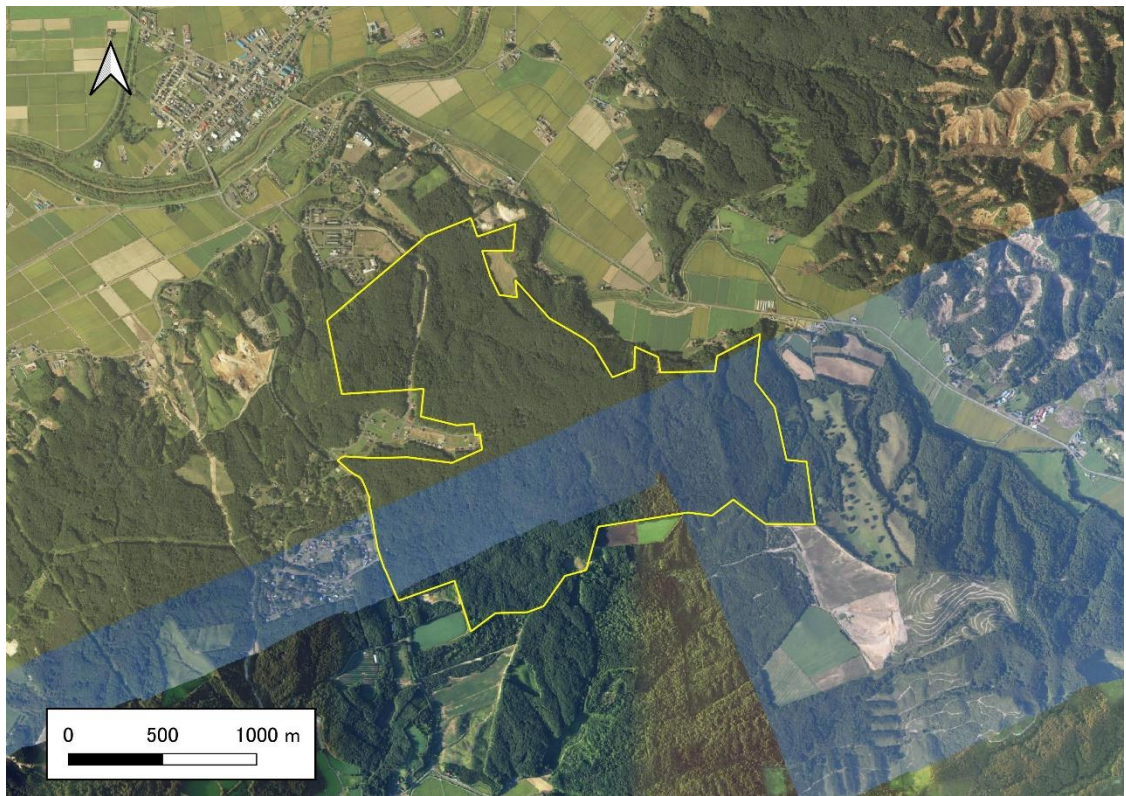


図1 環境保全林の区域図（黄色の枠線内）

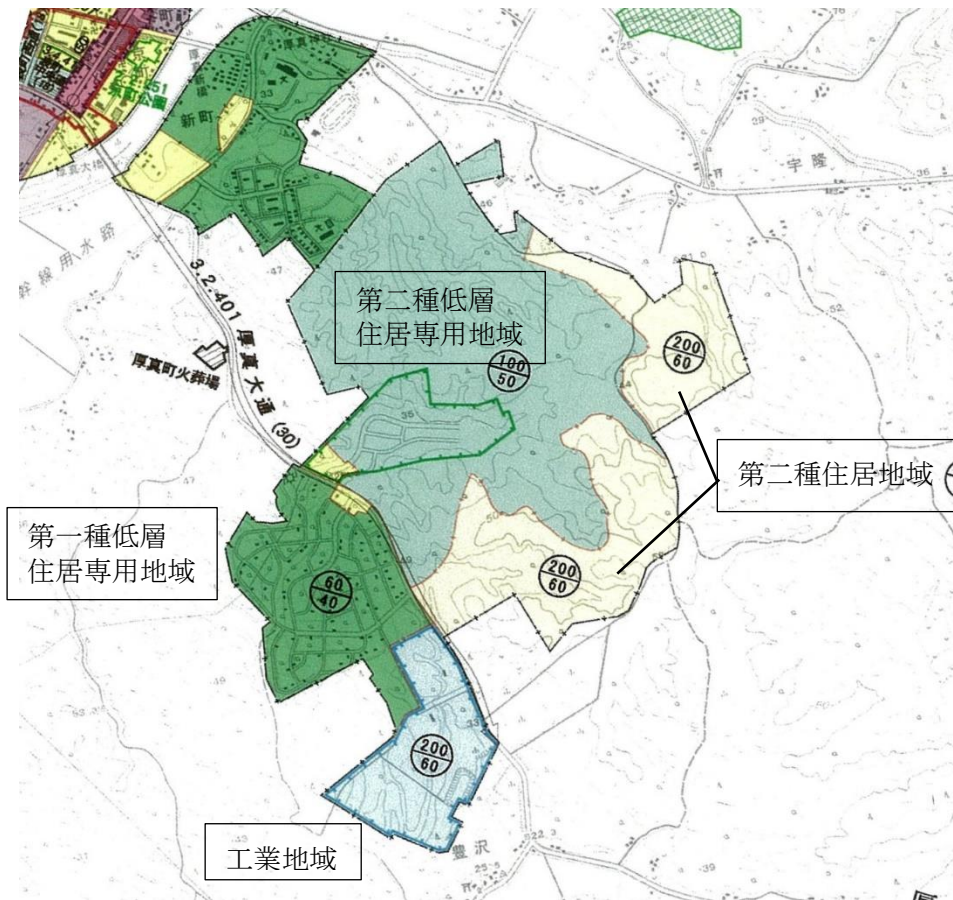


図2 都市計画区域図

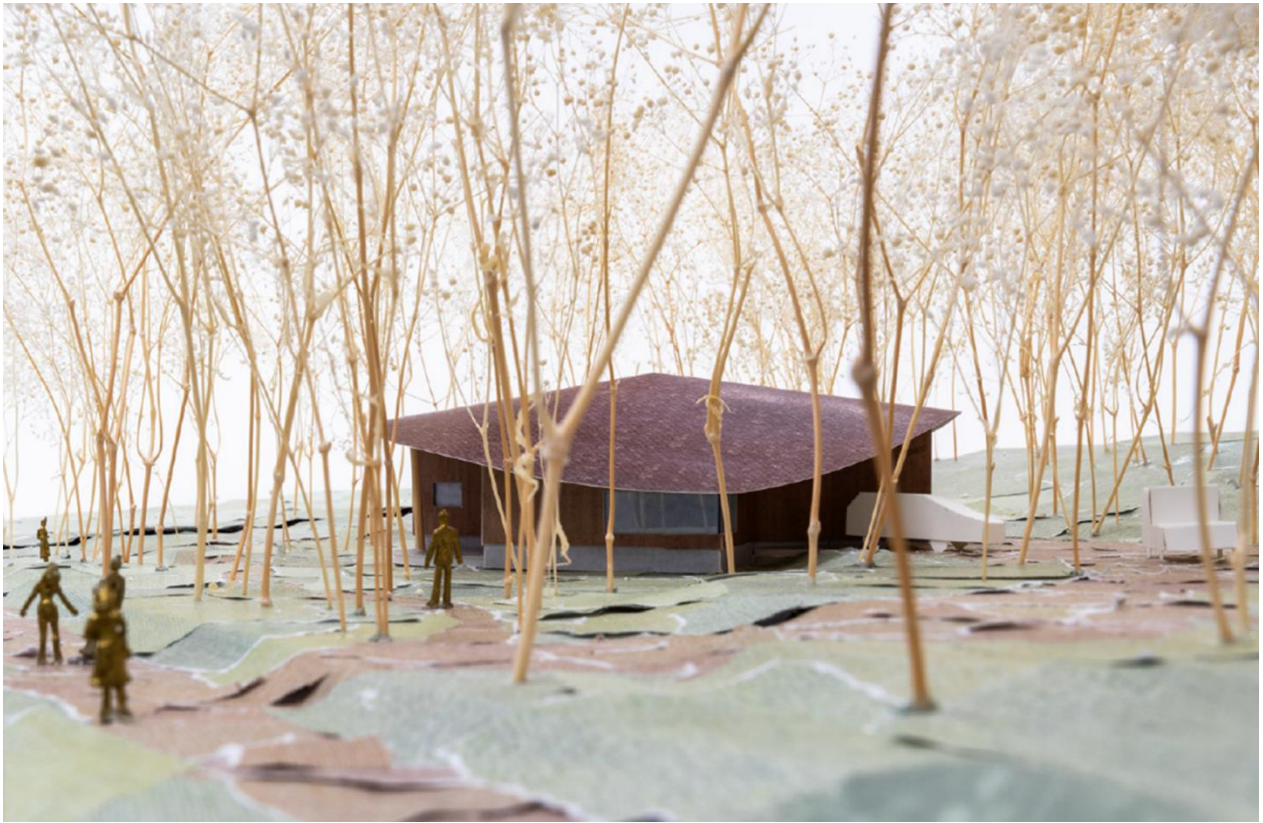


写真5 拠点施設の外観イメージ1



写真6 拠点施設の外観イメージ2

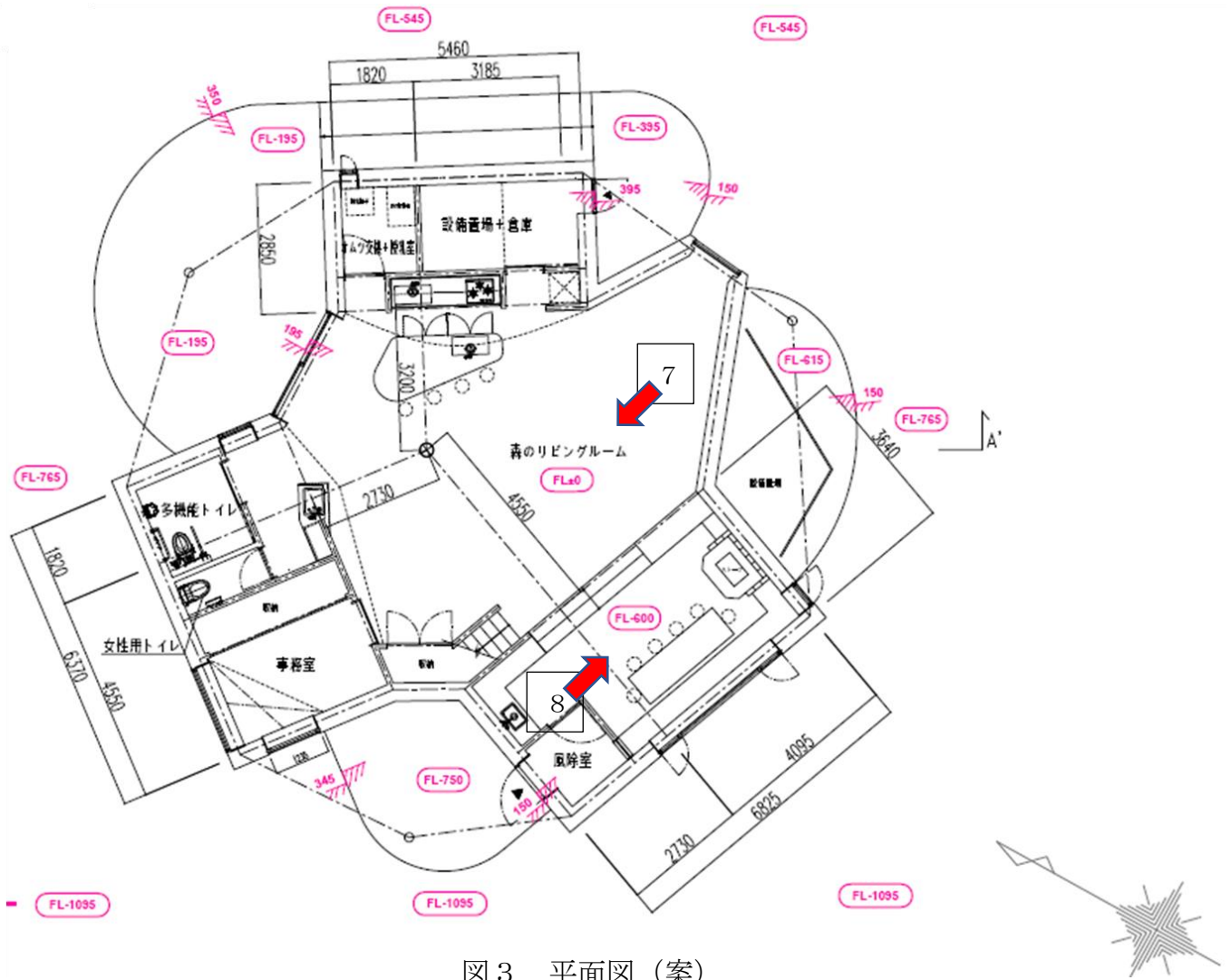


図3 平面図 (案)



写真7 内観のイメージ1



写真8 内観のイメージ2